

2025年度 AAMT定時社員総会

日 時 2025年6月18日（水） 14:00～14:45
会 場 AP東京丸の内

議 事

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 出席会員の確認
4. 議案審議
 - 第1号報告 2024年度 事業報告
 - 第1号議案 2024年度 決算報告（案）
 - 第2号報告 2025年度 事業計画
 - 第3号報告 2025年度 収支予算
5. その他（会員提案事項ほか）
6. 閉会の辞

4. 議案審議

第1号報告	2024年度	事業報告	
第1号議案	2024年度	決算報告	(案)
第2号報告	2025年度	事業計画	
第3号報告	2025年度	収支予算	

第1号報告

2024年度事業報告

第1号報告 2024年度事業報告

2025年3月31日

一般社団法人アジア太平洋機械翻訳協会会長 安達 久博

1. イベント委員会では、**年次大会を実施し**、また、**総会の運営**を行い、**盛況**であった。
2. **セミナー委員会**では、アンコールを含めセミナーを年間 **6 回**開催し、**2回目となるAAMT若手翻訳研究会では新たにスポンサー賞を導入した**。
3. **AAMTジャーナル「機械翻訳」2号/年の発行を着実に実施し**、また、広告掲載については検討を継続することとなった。
4. セミナー、大会等の機会を捉えプレスリリース、SNS広告、記事広告、関連団体へのメール配信で**年間を通じて広報した**。
5. **長尾賞の規定の一部を改訂し**、**AAMT長尾賞**、**AAMT長尾賞学生奨励賞**の宣伝、募集、選考の活動を行った。
6. **国際会議オンライン参加支援制度はAMTA 2024へのオンライン参加を支援した**。
7. 特許翻訳研究会では、会合を6回開催し、**特許機械翻訳の改善に繋がる自然言語処理を中心とした諸課題について委員や外部講師による研究発表と議論を行い報告書を作成した**。
8. **ポストエディットの健全な普及を促進する目的でポストエディット委員会が発足し、ガイドラインの発行に向け活動を開始した**。

1. 広報委員会

1. ウェブサイト

本協会では、ウェブサイトを重要な情報発信手段と位置付け、定期的な更新を行った。今年は会長交代の年だったため、会長挨拶のページを更新した。

会員向けサイトでは、例年通りAAMTジャーナルを早期に公開し、AAMTセミナーと年次大会の広報も行った。

2. SNS

Twitter、Facebook、Peatixでの発信を継続した。

3. その他広報活動

薬事日報社から会長へのインタビューを受け、薬事日報の読者向けに特別セミナーを支援した。

年次大会では、学生の参加を促すために学校への広報活動を行った。イベントごとに関連団体などにメールを送信し、集客活動を行った。

入会案内やセミナーのリーフレットを作成し、関連団体のイベントでAAMTジャーナルと一緒に配布し、AAMTの認知度向上に努めた。

2. 編集委員会

年2号の発行号数を目標としてAAMTジャーナル「機械翻訳」の記事を企画・編集し、電子ジャーナルとして発行した。ジャーナル記事の著作権としては Creative Commons Attribution ShareAlike 4.0 を基本とすることにより、投稿された記事が自由に流通することにより、著者とAAMTの利益が最大化することを目指す。また、「法人会員PR」として、機械翻訳に関して、法人会員からPR記事を受け付けた。

3. イベント委員会

当委員会は、今年度も主にアジア太平洋地区において機械翻訳の技術開発、利用促進のために必要な情報の収集および発信の場として、イベントを企画運営した。具体的には、上期には年次総会の運営支援を行い、下期からは年次大会（2024年度は12月/AAMT 2024, Tokyo）を企画運営した。

2024年度の活動は下記のとおりである。

1. 定時社員総会の運営

昨年度同様、定時社員総会の当日運営を支援した。

2. AAMT 2024, Tokyoの開催

今年度も、年次大会を開催し、AAMTの活動を協会内外に発信した。昨年同様、会場開催とZoomでのオンライン同時配信を併用したハイブリッド形式で実施した。

4. セミナー委員会

以下を目的として、定期的（年6回）に機械翻訳に関する最新情報を発信するためのセミナー及び研究界を開催した。

1. AAMT会員へのメリットの提供
2. 新規会員獲得のための知名度向上
3. 業界の活性と社会への貢献

活動：

- 5月： 成功事例に学ぶ、機械翻訳およびMTPEの導入方法
- 7月： 新規アルツハイマー病治療薬の進展を見据えた認知症診療の展望 ～音声解析を用いた早期診断～
- 9月： 翻訳ワークフローにおけるNMTとLLMの活用 ～LLMのインテリジェンスとそれを用いた自動ポストエディット～
- 10月： 上記アンコール開催
- 1月： AI事業者ガイドラインのご紹介
- 3月： 第2回AAMT若手翻訳研究会（通訳・翻訳・機械翻訳に関する若手研究発表会）

形式： Zoomによる90分の講演とQ&A、講演後2週間のオンライン配信

体制： 石岡委員長を中心に中澤敏明理事、川崎健理事、小澤脩斗委員、古谷慶之委員が協力し、石川広報委員長の支援のもと、運営している。

5. 長尾賞委員会

2024年度は、2023年度までと同様に、AAMT長尾賞、AAMT長尾賞学生奨励賞の宣伝、募集、選考の活動を行った。

6. 国際化委員会

AAMTをAsia-Pacificの組織として国際化していく方策の1つとして、2014年以降、日本の研究者が中心となって継続的に開催しているアジア翻訳ワークショップ（Workshop on Asian Translation; WAT）をAAMTの国際会議の母体とする検討を継続している。このために、WAT2023に引き続きEMNLP2024（マイアミ、2024年11月）の併設ワークショップとして開催されたWAT2024をスポンサーとして支援した。WAT2024では研究論文発表およびパネルディスカッションがあった。パネルディスカッションではアジア各国の機械翻訳の状況についての意見交換があり、またWATが情報交換の場としての役割を担うことで合意が得られた。翻訳タスクは同じくEMNLP2024の併設ワークショップであったWMT2024において実施した。合わせて20名程度の参加者があった。

7. 法人強化委員会

本年度は規程等の改定は行わなかった。

8. 学生学会参加サポート事業

2024年度はAMTA 2024へのオンライン参加を希望する学生への会議参加費の支援を実施した。

AAMTフォーラムや関係学会のメーリングリスト等で告知を行い、1名（国内大学）から応募があり、支援を決定した。支援を受けた学生の会議参加レポートはAAMTジャーナルに掲載予定である。

9. AAMT/Japio特許翻訳研究会

知財のグローバルな流通が加速するにつれ、特許業務の多言語化が進展し、その翻訳の需要も急速に高まっている。このような状況の中で、本研究会は、特許情報のデータベース化とその翻訳の機械化に先進的な役割を果たしている一般財団法人日本特許情報機構（Japio）からの委託を受け、特許の機械翻訳の技術的な課題を把握し、次世代の特許翻訳のビジョンを明確にすることを目標に引き続き活動を行う。

2024年度も委員や外部講師による研究発表を行う会合を6回開催し、特許機械翻訳の改善に繋がる自然言語処理を中心とした諸課題について議論を行い、報告書を作成した。また、研究会の核となる新しい課題として特許請求項の翻訳を行う国際共通タスクの提案についての議論を始め、2025年度以降の国際会議での実施に向けて準備することとなった。

定期会合の他に、2024年11月には第8回特許情報シンポジウムをオンラインで開催し、約100名の参加者を集めた。特許庁、特許実務者、研究者のそれぞれの視点からの講演とパネル討論を通じて、大規模言語モデル時代の特許情報処理についての議論を深めた。

10. ポスト・エディット委員会

■ 2024年度第1回 2024年12月16日

委員会の名称をMT（機械翻訳）に限定せず、「ポスト・エディット委員会」とした。
ISOの今後の動向やタグの問題は、ガイドラインのコラム等で触れ、基本はワード（Word）の文章を汎用エンジンや、自社でカスタマイズしたエンジンを使用することを前提とした。
MTをできるだけ信用し、あまり手を加えない上で、ポスト・エディットは正確性を担保した上で、できるだけエディットしないことが重要とした。
MT訳を信じることで高速化でき、訳のブレがなくなるというメリットがある。プリファレンスやリーダビリティにはできるだけ踏み込まずにPEを行うことを目標として、半年間月1回開催とした。
LLM翻訳も視野に入れるが、翻訳の前後に組み合わせて生成AIを利用することはフェーズ2以降で考える。

■ 2024年度第2回 2025年1月23日

■ 2024年度第3回 2025年2月20日

■ 2024年度第4回 2025年3月24日

協会活動報告 (2024年4月～2025年3月)

予算理事会

- 2025年3月17日

第5回定時社員総会

- 2024年6月20日

通常理事会

- 2024年5月22日 (2024年度 第1回通常理事会)
- 2024年6月20日 (2024年度 臨時理事会)
- 2024年8月7日 (2024年度 第2回通常理事会)
- 2024年10月9日 (2024年度 第3回通常理事会)
- 2024年12月11日 (2024年度 第4回通常理事会)
- 2025年2月12日 (2024年度 第5回通常理事会)
- 2025年3月17日 (2024年度 第6回通常理事会)

広報委員会

- 2024年4月度
 - 1. 第9回セミナーページを作成し、SNS広告やメールなど広報活動をおこなった。
- 2024年5月度
 - 1. AAMTジャーナル80号の会員向けページを公開した。
- 2024年6月度
 - 1. AAMTジャーナルPDF版を公開した。
 - 2. AAMT長尾賞授賞式に関する広報を行った。
 - 3. AAMT長尾賞受賞者のサイトを公開した。
- 2024年7月度
 - 1. 第10回AAMTセミナーページを作成し、広報を開始した。医学へのAI利用の内容だったため、関連団体以外にも広く業界団体を通じて広く広報を行った。
- 2024年8月度
 - 1. 第11回AAMTセミナーの広報を開始した。
- 2024年9月度
 - 1. 薬事日報からの取材を受け、PDFをサイトに公開した。
- 2024年10月度
 - 1. JTF翻訳祭での広報活動を行った
 - 2. 年次大会の申し込みを開始した
 - 3. 第11回セミナーページを作成し、SNS広告やメールなど広報活動をおこなった。
- 2024年11月度
 - 1. 薬事日報読者向けセミナー開催の広報を行った。
 - 2. 年次大会の広報活動を行った。
 - 3. 学校等に年次大会のチラシを配布した。
 - 4. AAMTジャーナル81号の会員向けページを公開した。
- 2024年12月度
 - 1. AAMTジャーナルPDF版を公開した。
 - 2. 第12回AAMTセミナーのページを作成し、メールなど広報活動をおこなった。
- 2025年1月度
 - 1. 第13回AAMTセミナーのページを作成し、第14回セミナーページを作成し、SNS発信やメールなど広報活動をおこなった。
- 2025年2月度
 - 1. 自動翻訳シンポジウムにおいて、出展し広報活動を行った。
 - 2. 年次大会の翻訳通訳ジャーナル取材記事を確認した。
 - 3. AAMTセミナー広報データ用の入力フォームを作成し、迅速にサイトを作成できるよう改善した。
- 2025年3月度
 - 1. 第14回セミナーページを作成し、SNS発信やメールなど広報活動をおこなった。
 - 2. 第8回セミナーのプログラムを公開した。
 - 3. 第8回セミナーの受賞者を公開した。

編集委員会

- 編集委員会をオンラインで実施することにより、迅速な編集作業を実現している。
- No.80（2024年6月発行）を発行した。
- No.81（2024年12月発行）を発行した。
- No.82（2025年6月発行）を発行予定。

イベント委員会

リモートワークを推進した結果、イベント委員会の活動もSlackやZoomを活用して実施した。

■ 2024年7月度（2024年度第1回）

1. 新任委員の自己紹介
2. 本年度年次大会の開催形態について
3. 年次大会の役割分担（担務）

■ 2024年7月度（2024年度第2回）

1. 参加管理システムについて
2. 開催日・場所等について
3. 公募セッションのポスター化について
4. 実行委員会のタスクスケジュールについて
5. 年次大会の登壇者/講演内容候補

■ 2024年8月度（2024年度第3回）

1. 参加管理システムについて
2. 開催日・場所等について
3. 公募セッションのポスター化について
4. 実行委員会のタスクスケジュールについて
5. サブテーマについて
6. 年次大会の登壇者/講演内容候補について

■ 2024年10月度（2024年度第4回）

1. 年次大会の登壇者/講演内容候補について
2. 当日のタイムテーブルについて
3. 実行委員会のタスクについて
4. 申し込みについて
5. 後援依頼について

■ 2024年11月度（2024年度第5回）

1. 申込み状況の確認
2. 招待客について
3. 当日運営について
4. 公募募集について
5. 展示について
6. スポンサーについて
7. 懇親会について
8. 下見について

■ 2024年12月度（2024年度第6回）

1. 参加者について
2. 収支について
3. アンケートについて

AAMT 2024, Tokyo ～機械翻訳の進歩と調和～

■ 2024年12月3日【年次大会】

1. 10:00-10:10 ◎開会挨拶
2. 10:10-10:50 ◎招待講演①「機械翻訳はどこまでも可能か？」 隅田 英一郎 氏
3. 11:00-11:40 ◎招待講演②「日本語大規模言語モデルの進展とオープンモデルの開発取組」 小田 悠介 氏
4. 11:40-13:15 ◎ダイヤモンドスポンサーランチョンセミナー
5. 13:15-14:30 ◎公募ポスターセッション（3件）
6. 14:30-15:10 ◎招待講演③「自治体情報の多言語化を支える翻訳資源とテクノロジー」 宮田 玲 氏
7. 15:30-17:00 ◎パネルディスカッション「企業におけるMT活用と生成AIの可能性」
8. 17:00-17:10 ◎閉会挨拶
9. 17:30-19:30 ◎懇親会

●開催方式：会場でのリアルイベント／オンライン配信のハイブリッド形式

上記日程にて「AAMT 2024, Tokyo ～機械翻訳の進歩と調和～」と、会場での懇親会を開催した。

昨年度同様、年次大会を有償開催とし、展示ブースも会場で設置した。ハイブリッド形式での開催であったが、関係者を含めて172名が参加した。協賛企業によるランチタイムウェビナーでは、会場参加者向けにランチョン形式でセミナーを実施した。

セミナー委員会

AAMTセミナーの企画/運営

AAMTセミナーの企画運営を行った。

1. 第9回AAMTセミナー「成功事例に学ぶ、機械翻訳およびMTPEの導入方法」

日 時：2024年5月29日（水）14：00～15：30

講 師：燃脇 綾子 氏（レッドハット株式会社 ローカリゼーションサービス部 部長）
磯田 雄輝 氏（レッドハット株式会社 翻訳者）
海老原 仁美 氏（レッドハット株式会社 翻訳者）

参加者数：56名

2. 第10回AAMTセミナー「新規アルツハイマー病治療薬の進展を見据えた認知症診療の展望 ～音声解析を用いた早期診断～」

日 時：2024年7月19日（金）14：00～15：30

講 師：新井 哲明 氏（筑波大学 医学医療系臨床医学域精神医学 教授）
山田 康智 氏（日本アイ・ビー・エム株式会社 東京基礎研究所 シニアリサーチサイエンティスト）

参加者数：118名（無料）

3. 第11回AAMTセミナー「翻訳ワークフローにおけるNMTとLLMの活用～LLMのインテリジェンスとそれを用いた自動ポストエディット～」

日 時：2024年9月19日（木）14：00～15：30

講 師：内山 将夫 氏（AAMT副会長・情報通信研究機構 先進的翻訳技術研究室 室長）
本間 奨 氏（日本特許翻訳株式会社 代表取締役）

参加者数：126名

4. アンコールセミナー「翻訳ワークフローにおけるNMTとLLMの活用～LLMのインテリジェンスとそれを用いた自動ポストエディット～」

日 時：2024年10月22日（火）14：00～15：30

講 師：内山 将夫 氏（AAMT副会長・情報通信研究機構 先進的翻訳技術研究室 室長）
本間 奨 氏（日本特許翻訳株式会社 代表取締役）

参加者数：17名

5. 第12回AAMTセミナー「AI事業者ガイドラインのご紹介」

日 時：2025年1月16日（木）14：00～15：30

講 師：小倉 知洋 氏（総務省 情報流通行政局参事官室 参事官補佐）
吉田 薫 氏（総務省 情報流通行政局参事官室 主査）

参加者数：37名

6. 第14回AAMTセミナー「AAMT若手翻訳研究会」

日 時：2025年3月21日（金）14：00～17：00

講 師：（応募者10件）
参加者数：56名（無料）

長尾賞委員会

- 2024年3月度
 - 1. 第19回AAMT長尾賞および第11回AAMT長尾賞学生奨励賞の募集を開始した。
- 2024年4月度（2024年度第1回）
 - 1. 第19回AAMT長尾賞選考委員会および第11回AAMT長尾賞学生奨励賞選考委員会を設置した。
- 2024年5月度（2024年度第2回）
 - 1. 第19回AAMT長尾賞選考委員会による選考を行い、下記1件の受賞が決定した。
 - LLM-jp
- 2024年5月度（2024年度第3回）
 - 1. 第11回AAMT長尾賞学生奨励賞選考委員会による選考を行い、下記2件の受賞が決定した。
 - 毛卓遠 (Zhuoyuan Mao) 京都大学 大学院情報学研究科（現在：ソニーグループ株式会社）
 - 福田 りょう (Ryo Fukuda) 奈良先端科学技術大学院大学（現在：日本電信電話株式会社）
- 2024年6月度
 - 1. 総会に伴って受賞式およびを受賞記念講演を開催した。
- 2024年12月度
 - 1. AAMTジャーナル No.81 に受賞記念論文が掲載された。

■ 第19回AAMT長尾賞受賞式・記念講演会

・ 受賞者

LLM-jp

・ 受賞理由:

LLM-jpによるオープンかつ日本語に強い大規模言語モデルの研究開発

国産の大規模言語モデル（LLM）に関する研究開発団体であるLLM-jpは、国立情報学研究所所長の黒橋禎夫氏の呼びかけのもと、オープンかつ日本語に強い大規模言語モデルを構築し、LLMの原理解明に取り組むことを目的として発足した。LLM構築時のデータ・技術資料の公開のみならず、モデル・ツールを無償で公開することで、日本国内における大規模言語モデル研究開発は、加速度的な進化を遂げている。本団体の活動は機械翻訳に限定されるものではないが、今後の機械翻訳の研究開発・普及にも大きく影響を与える多大な貢献であり、AAMT長尾賞の受賞にふさわしい。



■ 第11回AAMT長尾賞学生奨励賞

・ 受賞者1:

毛卓遠 (Zhuoyuan Mao)

京都大学 大学院情報学研究科 (現在：ソニーグループ株式会社)

・ 受賞対象論文:

"Breaking Language Barriers: Enhancing Multilingual Representation for Sentence Alignment and Translation"

京都大学大学院情報学研究科 黒橋禎夫教授の指導のもとに、2023年度 京都大学大学院情報学研究科の博士論文としてまとめられたものである。

・ 受賞理由:

本論文は、低資源言語も含めた多言語機械翻訳を視野に、多言語埋め込み表現の学習、多言語機械翻訳のためのモデル構成と学習方法についての研究成果をまとめた博士論文である。近年盛んに研究されている多言語処理、多言語機械翻訳に関わる様々な課題において有効性を示しており、特に多言語埋め込み手法については軽量で高精度な手法を提案しており、機械翻訳に留まらない幅広い貢献があることが特筆される。以上の理由から、本論文はAAMT長尾賞学生奨励賞にふさわしいものとする。



■ 第11回AAMT長尾賞学生奨励賞

・ 受賞者2:

福田 りょう (Ryo Fukuda)
奈良先端科学技術大学院大学（現在：日本電信電話株式会社）

・ 受賞対象論文:

"Towards Streaming Speech Translation for Real-world Scenarios"
奈良先端科学技術大学院大学 中村哲教授の指導のもとに、2023年度 奈良先端科学技術大学院大学の博士論文としてまとめられたものである。

・ 受賞理由:

本論文は、長い音声ストリームに対するオンライン機械翻訳のために、話し言葉機械翻訳や音声翻訳のための入力音声の自動分割についての研究成果をまとめた博士論文である。特に提案技術を組み入れたend-to-endのオンライン同時音声翻訳システムの構築と評価が行われている点で完成度が高く、実用への期待を感じさせる内容である。以上の理由から、本論文はAAMT長尾賞学生奨励賞にふさわしいものとする。



学生会参加サポート事業

- AMTA 2024オンライン参加支援
 - 被支援者：郭 文静（同志社大学）
 - 支援額：75米ドル（約11千円）

AAMT/Japio特許翻訳研究会

- 2024年4月度（2024年度第1回）
 1. 今年度の活動について
 2. 特許情報シンポジウムについて
 3. 今年度の研究計画について
- 2024年6月度（2024年度第2回）
 1. 研究発表（外部講師）
 2. 特許情報シンポジウムの準備について
 3. 今年度研究計画について
- 2024年8月度（2024年度第3回）
 1. 研究発表（外部講師）
 2. 特許情報シンポジウムについて
- 2024年10月度（2024年度第4回）
 1. 研究発表（外部講師）
 2. 特許情報シンポジウムの準備状況について
 3. 来年度のPSLTワークショップについて
- 2024年12月度（2024年度第5回）
 1. 研究発表（須藤委員）
 2. 特許情報シンポジウムの結果について
 3. 来年度のPSLTワークショップについて
 4. 次年度以降の活動方針について
 5. 今年度の研究報告書について
- 2025年2月度（2024年度第6回）
 1. 研究発表（外部講師）
 2. 今年度の研究会報告書について
 3. 来年度のPSLTワークショップについて
 4. 特許請求項タスクの立ち上げについて
 5. 次年度の研究会について
- 第9回特許情報シンポジウム（2024年11月7日 オンライン）
 - 特許庁 岩永様
 - 愛知工業大学 野中様
 - IRD国際特許事務所 谷川様
 - 大澤特許事務所 大澤様
 - NTT 永田様

2024年度末（2025年3月31日）現在の社員数：

法人会員：71法人（2023年度末75法人、入会2法人、退会6法人）

個人会員：99名（2023年度末102名、入会16名、退会19名）

第1号議案

2024年度決算報告（案）

第 1 号議案 2024年度決算報告（案）

1. 収支計算書

一般会計
(1) 収支計算書
自：2024年4月1日
至：2025年3月31日

(単位：円)

科目	予算額	決算額	備考
収益の部			
1. 入会金収入	100,000	29,000	入会 法人10社、個人13名（入会金免除有）
2. 会費収入	6,328,000	5,725,000	法人105口、個人100名（うち学生会員8名）
3. イベント収入	2,372,000	1,795,000	年次大会参加費、懇親会費。セミナー参加費
4. 協賛金収入	1,500,000	2,365,000	イベント協賛金収入
5. Japio受託収入	4,211,768	3,071,547	AAMT/Japio研究会受託収入
6. 雑収入	0	7,471	受取利息
当期収益合計(A)	14,511,768	12,993,018	

（単位：円）

科目	予算額	決算額	備考
費用の部			
1. 会議活動費	310,000	166,436	理事会
2. 広報費	1,205,000	809,285	HP管理費、広告費
3. 事務局管理費	2,650,000	2,400,447	事務委託費、事務局経費
4. 他団体交流費	720,000	720,000	JTF、言語処理学会会費。スポンサー費。WAT
5. イベント費	3,394,500	3,129,072	長尾賞、総会、年次大会、セミナー、MTSummt開催経費
6. 編集委員会費	200,000	195,660	ジャーナル制作費（印刷、デザイン）
7. 租税公課	200,000	186,200	収入印紙。消費税は予備費より
8. Japio受託事業費	4,646,770	2,967,929	AAMT/Japio研究会受託経費
9. 各種事業費	170,000	11,248	学生支援
10. ソフトウェア償却	80,960	80,960	
11. 予備費	1,000,000	0	消費税を租税公課へ
当期費用合計(B)	14,577,230	10,667,237	
税引前当期正味財産増減額(A)-(B)	-65,462	2,325,781	
法人税住民税及び事業税(C)	80,000	68,300	
当期正味財産増減額(A)-(B)-(C)	-145,462	2,257,481	
前期繰越正味財産額(D)	29,609,823	33,612,132	予算の前期繰越は前年度予算の次期繰越金額
次期繰越正味財産額(A)-(B)-(C)+(D)	29,464,361	35,869,613	

2. 正味財産増減計算書

自：2024年4月1日
至：2025年3月31日
(単位：円)

科目	金額
I 経常収益	
1. 受取会費	
年会費	5,725,000
入会金	29,000
2. 総会収益	
懇親会費	330,000
3. 年次大会収益	
参加費	398,600
懇親会費	257,400
協賛金	2,310,000
4. セミナー収益	
参加費	809,000
協賛金	55,000
5. 受託収益	
AAMT/Japio研究会受託収入	3,071,547
6. その他収益	
受取利息	7,471
経常収益 計	12,993,018

科目	金額
II 経常費用	
1. 事業費	
諸謝金	2,183,620
旅費交通費	115,082
租税公課	2,000
支払手数料	27,540
事務委託費	639,687
事業費 計	2,967,929
2. 管理費	
印刷費	17,705
会議費	1,535,647
通信費	114,683
消耗品費	86,256
HP管理費	517,766
広告宣伝費	901,519
接待交際費	951,976
減価償却費	80,960
諸会費	110,000
租税公課	186,200
支払手数料	553,560
事務委託費	2,186,313
謝金	211,060
ジャーナル制作費	195,660
記念品（長尾賞）	38,755
研修費	11,248
管理費費 計	7,699,308
経常費用 計	10,667,237
当期経常増減額	2,325,781
III 経常外収益	
経常外収益計	0
IV 経常外費用	
経常外費用計	0
税引前当期正味財産増減額	2,325,781
法人税、住民税及び事業税	68,300
当期正味財産増加額	2,257,481
前期繰越正味財産額	33,612,132
次期繰越正味財産額	35,869,613

3. 貸借対照表

2025年3月31日

(単位：円)

科目	金額
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金	92,505
普通預金	32,485,249
未収入金	3,346,547
前払費用	132,325
前払会費	60,000
流動資産合計	36,116,626
2. 固定資産	
有形固定資産	
有形固定資産 計	0
無形固定資産	
ソフトウェア	404,800
減価償却累計額	303,600
	101,200
無形固定資産 計	101,200
投資その他の資産	
長期前払費用	4709
投資その他の資産 計	4709
固定資産合計	101,200
資産合計	36,222,535

科目	金額
II 負債の部	
1. 流動負債	
未払金	50,000
未払費用	55,806
前受会費	6,000
預り金	56,616
未払法人税等	68,300
未払消費税等	116,200
流動負債合計	352,922
負債合計	352,922
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産額	33,612,132
当期正味財産増減額	2,257,481
正味財産合計	35,869,613
負債および正味財産合計	36,222,535

4. 財産目録

2025年3月31日

(単位：円)

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金	92,505	未払金	50,000
普通預金	32,485,249	セミナー賞品代	(50,000)
三菱東京UFJ銀行①一般	(15,105,618)	未払費用	55,806
三菱東京UFJ銀行②長尾賞	(591,669)	前受会費	6,000
ゆうちょ銀行	(2,011,950)	預り金（源泉税）	56,616
AAMT/Japio		未払法人税等	68,300
PayPay銀行	(14,776,012)	未払消費税等	116,200
未収金	3,346,547		
Japio 受託収入	(3,071,547)		
スポンサー費	(275,000)	流動負債合計	352,922
前払費用	132,325	負債合計	352,922
前払会費	60,000	正味財産	35,869,613
流動資産合計	36,116,626		
2. 固定資産			
有形固定資産	0		
無形固定資産	101,200		
ソフトウェア	(101,200)		
投資その他の資産	4,709		
長期前払費用	(4,709)		
固定資産合計	105,909		
資産合計	36,222,535		

参考資料：説明資料

自：2024年4月 1 日
至：2025年3月31日

(単位：円)

科目	決算額	内訳		備考
収益の部				
1. 入会金収入	29,000	個人会員入会金	9,000	9名(1000*9)
		法人会員入会金	20,000	2社(10000*2)
2. 会費収入	5,725,000	個人会費	460,000	92名(5000*92)
		学生会費	8,000	8名(1000*8)
		法人会費	5,257,000	70法人105口分・未納分入金有
3. イベント収入	1,795,000	総会懇親会	330,000	50名(6600*50)
		AAMT2024参加費 会員	165,000	33名(5000*32)会場
		AAMT2024参加費 会員	135,000	45名(3000*45)オンライン
		AAMT2024参加費 学生会員	4,000	4名(1000*4)オンライン
		AAMT2024参加費 非会員	33,000	3名(11000*3)会場
		AAMT2024参加費 非会員	59,400	9名(6600*9)オンライン
		AAMT2024参加費 非会員学生	2,200	1名(2200*1)オンライン
4. 協賛金収入	2,365,000	AAMT2024懇親会	257,400	39名(6600*39)
		セミナー参加費	809,000	2024年度6回開催
		AAMT2024協賛金	440,000	ダイヤモンド（会員）1社（440,000*1）
5. 受託収入	3,071,547		1,100,000	ゴールド（会員）5社（220,000*5）
			770,000	シルバー（会員）7社（110,000*7）
		セミナー	55,000	1社（55,000*1）
		AAMT/Japio研究会	3,071,547	(財)日本特許情報機構
6. 雑収入	7,471		7,471	受取利息
当期収益合計(A)	12,993,018		12,993,018	

自：2024年4月1日
至：2025年3月31日

参考資料：説明資料
（単位：円）

科目	決算額	内訳		備考
費用の部				
1. 会議活動費	166,436	総会会場費等	166,436	理事会Zoom費用等含む
2. 広報費	809,285	WEBサイト HP管理料	809,285	HP更新料、レンタルサーバー等
3. 事務局管理費	2,400,447	事務経費 通信費	101,650	郵便代、プラストメール等
		事務経費 消耗品費	74,855	名刺等
		事務経費 支払手数料	526,098	税務申告、役員登記、振込手数料
		事務経費 印刷費	4,034	資料、宛名ラベル等印刷
4. 他団体交流費	720,000	事務局運営費	1,693,810	公益総研事務委託費・事務局長
		日本翻訳連盟	60,000	年会費
			55,000	翻訳祭スポンサー費
		言語処理学会	50,000	賛助会費
			55,000	スポンサー費
5. イベント費	3,129,072	WAT	500,000	スポンサー費
		長尾賞	38,755	記念品等
			1,980	支払手数料
			3,441	消耗品、通信費、印刷費
		総会	206,415	会場費
			252,450	会場代
			102,080	Zoom等
		AAMT2024Tokyo	1,162,502	会場代
			423,500	懇親会費等
			91,060	講師謝礼
			25,482	支払手数料（Payvent）
			98,904	印刷費、通信費、交際費
		セミナー	120,000	講師謝礼
			110,000	賞品
6. 編集委員会費	195,660	事務委託費	492,503	公益総研事務委託費
7. 租税公課	186,200	AAMTジャーナル	195,660	制作費（印刷、デザイン）
			70,000	役員・事務所移転登記収入印紙代
			116,200	消費税（予備費より）
8. Japio受託事業費	2,967,929	受託事業費	2,328,242	AAMT/Japio研究会経費
		事務委託費	639,687	公益総研事務分
9. 各種事業費	11,248	学生支援	11,248	MTSummit
10. ソフトウェア償却	80,960	無形固定資産	80,960	ソフトウェア（2021年7月～5年償却）
11. 予備費	0		0	
当期費用合計(B)	10,667,237		10,667,237	
税引前当期正味財産増減額(A)-(B)	2,325,781			
法人税住民税及び事業税(C)	68,300			
当期正味財産増減額(A)-(B)-©	2,257,481			
前期繰越正味財産額(D)	33,612,132			
次期繰越正味財産額(A)-(B)-(C)+(D)	35,869,613			

監 査 報 告 書

私たちは一般社団法人アジア太平洋機械翻訳協会の2024年度の収支計算書および正味財産増減計算書、2025年3月末現在の貸借対照表および財産目録について監査を行いました結果、本協会の2024年度の決算諸表が適法かつ公平に表示されているものと認めます。

2025年5月12日

一般社団法人アジア太平洋機械翻訳協会

監 事 田中英輝

監 事 古谷祐一

第2号報告

2025年度事業計画

第2号報告 2025年度事業計画

1. 広報委員会ではAAMTの拡大に資するべくWEB、SNS等を強化する。
2. 編集委員会は定着したAAMTジャーナルの発行を維持する。
3. イベント委員会は現運営を維持する。
4. セミナー委員会は引き続き定期的（5回）にセミナーおよび研究発表会を開催する。
5. 長尾賞・長尾学生奨励賞は現運営を維持する。
6. 規程等の拡充を検討する。
7. 国際化に資するべく引き続きWAT開催を支援する。
8. 学生向け国際会議オンライン参加支援制度を継続する。ただし、本年度は対象となるイベントの開催なし。
9. AAMT/Japio特許翻訳研究会は特にLLMに注力する。
10. ポスト・エディット委員会は、自動翻訳の訳文を修正するための標準的な基準を取りまとめ、ガイドラインとして編纂し、発行する。

2025年度 役員の担務

	担務名	担務内容	担当理事（敬称略）
理 事	会長	理事会召集、法人業務執行	安達久博
	副会長	会長補佐	石川弘美、内山将夫、森口功造
	財務	会計管理	永田昌明
	広報委員会	ウェブサイト、SNS、広報	石川弘美（委員長）、岩下雅寛
	編集委員会	AAMTジャーナル	内山将夫（委員長）、後藤功雄、出内将夫、園尾聡、石川弘美
	イベント委員会	年次大会 / 総会の企画運営	森口功造（委員長）、菅谷史昭、園尾聡、長瀬友樹、出内将夫、富山亮太、室田陽子
	セミナー委員会	セミナーの企画運営	石岡映子（委員長）、中澤敏明、川崎健、石川弘美
	長尾賞委員会	長尾賞/長尾賞学生奨励賞	二宮崇（委員長）、永田昌明、須藤克仁
	国際化委員会	協会の国際化、MTSummit	中澤敏明（委員長）、森口功造、内山将夫、褚 晨翬 (Chenhui CHU)
	法人強化委員会	協会の法人としての強化	小林明（委員長）、安達久博
	学生学会サポート事業	学会参加等の学生支援	須藤克仁（委員長）、二宮崇
	AAMT/Japio特許翻訳研究会	研究会,symposium,workshop	須藤克仁（副委員長）※本研究会委員長は理事ではない有識者
	ポストエディット委員会	PEガイドラインの作成・普及	安達久博（委員長）、石川弘美、中澤敏明、森口功造、室田陽子
監 事			古谷祐一、田中英輝

1. 広報委員会

1. ウェブサイト

引き続き広報を本協会における重要な情報発信手段と位置付け、機械翻訳に関する情報を迅速に集約し発信できるようにする。

AAMTジャーナルの早期公開を行い、会員特典の価値を高める。

2. SNS

Twitter、Facebookでの発信を続ける。

3. その他広報活動

ポストエディットの拡大に伴い、翻訳者の参加を促進するため、翻訳者向けの媒体への広報を検討する。また、翻訳通訳に関わる業界団体と連携し、共同での広報活動を検討する。さらに、クライアント層へのリーチを拡大するために、自治体向けの冊子への広報を検討する。

2. 編集委員会

年2号の発行号数を目標としてAAMTジャーナル「機械翻訳」の記事を企画・編集し、電子ジャーナルとして発行する。ジャーナル記事の著作権としては Creative Commons Attribution ShareAlike 4.0 を基本とすることにより、投稿された記事が自由に流通することにより、著者とAAMTの利益が最大化することを目指す。また、「法人会員PR」として、機械翻訳に関して、法人会員からPR記事を受け付ける。

3. イベント委員会

当委員会は、今年度も主にアジア太平洋地区において機械翻訳の技術開発、利用促進のために必要な情報の収集および発信の場として、イベントを企画運営する。具体的には、下期（2024年度は12月/AAMT 2024, Tokyo）に開催している年次大会をその場として位置づけ、業界が潜在的に抱えている課題の共有や情報不足を解消する一助になることを目的とする。年次大会はAAMTの国際化推進を下支えできるような中核のイベントにすべく、発展的、段階的に拡大してゆくことを計画している。また、前事業年度から、通常総会時に実施する招待講演の運営も担う。

2025年度の活動計画は下記のとおりである。

1. 通常総会招待講演の運営

昨年度同様、招待講演の当日運営を担う。

2. AAMT 2025, Tokyo/(またはOnline)の開催

今年度も、年次大会を開催し、AAMTの活動を協会内外に発信する。実施の形態については、昨年度同様ハイブリッド形式での開催を想定する。このイベントでは機械翻訳の活用事例、業界トレンド、技術革新、その他MTに関連する技術領域を対象に、最新の情報をタイムリーに発信する場として位置付ける。会員のみならず非会員の参加者を促すことで、当協会の露出を増やし、会員増につなげることで、業界団体としての発展につなげたい。

4. セミナー委員会

定期的（年5～6回）に機械翻訳に関する最新情報を発信するためのセミナー、研究発表会を開催する。

目的：

1. AAMT会員へのメリットの提供
2. 新規会員獲得のための知名度向上
3. 業界の活性と社会への貢献

活動計画予定：

5月：大規模言語モデルSwallow ～英語から日本語へ言葉の壁を越える～
7月、9月、11月、1月：未定
3月：第3回若手翻訳研究会

形式：Zoomによる講演とQ&A（90分）、講演後2週間のオンライン配信

体制：石岡委員長を中心に、中澤理事および川崎理事に加え、小澤委員の退任後、新たに古谷慶之氏（アスカコーポレーション）を委員に迎え、石川広報委員長の支援のもと、効果的な運用を図る。

5. 長尾賞委員会

2025年度は、2024年度までと同様に、AAMT長尾賞、AAMT長尾賞学生奨励賞の宣伝、募集、選考の活動を行う。また、それらの活動に加えて、AAMT長尾賞、AAMT長尾賞学生奨励賞の存在を広めるために、より効果的な宣伝の方法について検討を行う。

6. 国際化委員会

AAMTをAsia-Pacificの組織として国際化していく方策の1つとして、2014年以降、日本の研究者が中心となって継続的に開催しているアジア翻訳ワークショップ（Workshop on Asian Translation; WAT）をAAMTの国際会議の母体とする検討を継続している。このために、WAT2018-2024に引き続きWAT2025 (IJCNLP-AACL 2025のワークショップを予定、12/20-24, Mumbai, India) をスポンサーとして支援する。

また、アジア各国の機械翻訳の現状など（研究レベルや実社会応用など幅広く）の情報共有を行うための枠組みを用意するなど、アジア各国の連携をより強固にすることを検討し、AAMTのAsia-Pacificでの活動を活性化する契機とする。

予算額が昨年度の50万円から100万円に増えているが、これは来年度にWATで実施予定の請求項にフォーカスした特許文献の日英翻訳タスクにおけるテストデータおよび評価費用を支援するためである。WMTなどでも近年、翻訳結果の正確な自動評価手法について盛んに議論されているが、現存する手法ではおそらく特許文献の正確な評価はできないのではないかと、という疑問に答えることと、特許文献であっても正しく評価できるモデルを構築するという目的を持って行われるタスクであり、学術的にも産業的にも有意義と考えられ、これを支援するものである。

7. 法人強化委員会

一般社団法人として、組織運営が円滑に進められるように規程等の拡充を検討する。

8. 学生学会参加サポート事業

COVID-19の影響により始まった国際会議のオンライン開催・ハイブリッド開催については、徐々にオンサイト開催への回帰が始まっているものの、出張を伴わない形で比較的安価に参加ができるという面でハイブリッド開催は今後も継続するものと期待できる。

MT SUMMITをはじめとするオンライン参加を希望する学生への会議参加費のサポートを本年も継続する。AAMTと今後の機械翻訳産業・機械翻訳研究開発を担う学生との接点とする。補助を受けて参加した学生にはAAMTジャーナルへの参加レポートの寄稿を依頼し、学生への支援と同時に会員向けのコンテンツの充実を図る。

※今年度についてはIAMT関連の会議がMT SUMMITのみの開催であり、かつMT SUMMITが対面参加のみで実施されることが決定されたため、今年度は本事業の実施を見合わせることにする。

9. AAMT/Japio特許翻訳研究会

知財のグローバルな流通により、特許業務の多言語化により特許情報の翻訳需要は非常に大きくなっている。このような状況の中で、本研究会は、特許情報のデータベース化とその翻訳の機械化に先進的な役割を果たしている一般財団法人日本特許情報機構(Japio)からの委託を受け、特許の機械翻訳の技術的な課題を把握し、次世代の特許翻訳のビジョンを明確にすることを目標に引き続き活動を行う。

本研究会は、特許機械翻訳の改善に繋がる諸課題を対象とした幅広い研究テーマを扱い、委員による研究発表や外部講師を招いての講演を行う会合を年5～6回開催する。特に2025年度は特許翻訳における重要課題である請求項の機械翻訳およびその評価に着目し、国際ワークショップWATと連携して共通タスクの実施に向けた具体的検討を行う。

また、隔年開催となっているMT Summit併催ワークショップ(PSLT 2025)を開催し、特許翻訳・技術文書翻訳についての情報交換と議論の場を提供する。

10. ポストエディット委員会

ポスト・エディット委員会は、自動翻訳の訳文を修正するための標準的な基準を取りまとめ、ガイドラインとして編纂し、発行する。同ガイドラインを広く公開し、自動翻訳及びポスト・エディットの普及に資するものとする。

活動計画予定：

7月にセミナー（無料）を開催し、ガイドラインの概要を説明し、視聴者からのFBを反映する。
9月に公開し、10月にガイドラインの概要やDLの方法をAAMT ジャーナルに寄稿し、
12月の年次大会にて印刷・配布する。

委員：（50音順、敬称略）

安達 久博（株式会社サン・フレア） 委員長（AAMT代表理事・会長）
荒木 慎太郎（株式会社カルテモ）、石川 弘美（株式会社十印）
上田 有佳子（ネットアップ合同会社）、大村 雅之（MSD株式会社）
隅田 英一郎（国立研究開発法人情報通信研究機構）、中澤 敏明（国立大学法人東京大学）
松永 朱子（シーメンスEDA株式会社）、森口 功造（株式会社川村インターナショナル）
室田 陽子（株式会社アメリカ・ネットワーク）、佐藤 美帆（SAPジャパン株式会社）

第3号報告

2025年度収支予算

第3号報告 2025年度収支予算

自：2025年4月 1 日
至：2026年3月31日

(単位：円)

科目	予算額	概要
収益の部		
1. 入会金収入	60,000	新規入会 法人5口、個人10名を想定
2. 年会費収入	5,960,000	法人110口、個人100名(うち学生10名) を想定
3. イベント収入	2,256,000	年次大会参加費、AAMTセミナー参加費、懇親会費
4. 協賛金収入	2,300,000	イベント協賛金
5. Japio受託収入	5,982,141	AAMT/Japio研究会受託収入
6. 雑収入	0	
当期収益合計(A)	16,558,141	

科目	予算額	概要
費用の部		
1. 会議活動費	310,000	総会・理事会など
2. 広報費	1,195,000	AAMTホームページ管理費、広告費
3. 事務局管理費	2,670,000	事務委託費、事務局経費
4. 他団体交流費	1,720,000	JTF、言語処理学会の会費、スポンサー費等
5. イベント費	3,934,000	総会、年次大会、セミナー開催経費、長尾賞
6. 編集委員会費	200,000	ジャーナル制作費
7. 租税公課	200,000	収入印紙、消費税
8. Japio受託事業費	5,884,100	AAMT/Japio研究会経費
9. 各種事業費	2,206,000	ポストエディット委員会、HPリニューアル等
10. ソフトウェア償却	80,960	
11. 予備費	1,000,000	
当期費用合計(B)	19,400,060	
税引前当期正味財産増減額(A)-(B)	-2,841,919	
法人税住民税及び事業税(C)	75,000	
当期正味財産増減額(A)-(B)-(C)	-2,916,919	
前期繰越正味財産額(D)	29,464,361	前年度予算の次期繰越正味財産額
次期繰越正味財産額(A)-(B)-(C)+(D)	26,547,442	

参考資料：収益の部 詳細

自：2025年4月 1 日
至：2026年3月31日

収益の部

(単位：円)

科目	予算額	内訳				備考
			人（口）数	単価	金額	
1.入会金収入	60,000	法人会員	5	10,000	50,000	
		個人会員	10	1,000	10,000	
		学生会員	0	1,000	0	
2.年会費収入	5,960,000	法人会員	110	50,000	5,500,000	
		個人会員	90	5,000	450,000	
		学生会員	10	1,000	10,000	
3.イベント収入	2,256,000	総会懇親会	40	6,600	264,000	
		年次大会参加費 会員	120	4,000	480,000	
		年次大会参加費 非会員	20	8,000	160,000	
		AAMT年次大会懇親会	70	6,600	462,000	
		AAMTセミナー参加費 会員	1		640,000	200名（3000*200） 学生40名（@1000*40）
		AAMTセミナー参加費 非会員	50	5,000	250,000	
4.協賛金収入	2,300,000	AAMT年次大会協賛金	1	2,300,000	2,300,000	
5.受託収入	5,982,141	AAMT/Japio研究会	1	5,982,141	5,982,141	AAMT/Japio研究会受託収入
6.雑収入	0			-	-	
収益合計	16,558,141					

参考資料：費用の部 詳細
(単位：円)

自：2025年4月 1 日
至：2026年3月31日

費用の部

科目	予算額	内訳			備考
1. 会議活動費	310,000	理事会・監事会	会議費	200,000	会場代・Zoom会議費用
			交際費	110,000	
2. 広報費	1,195,000	ウェブサイト	HP管理費	400,000	
		広告費	広告宣伝費	220,000	
			ノベルティ作成	55,000	
			印刷費	55,000	
			バナー広告	165,000	
			自治体向け広告	300,000	
3. 事務局管理費	2,670,000	事務経費	通信費	150,000	
			消耗品費	50,000	
			支払手数料	400,000	
			印刷費	10,000	
		事務局運営費	事務委託費	1,920,000	
			事務局長委託費	120,000	
		雑費		20,000	
1. 会議活動費	1,720,000	日本翻訳連盟	年会費	60,000	
			スポンサー費	55,000	
		言語処理学会	年会費	50,000	
			スポンサー費	55,000	
		WAT			
			補助金	1,500,000	

科目	予算額	内訳			備考
5. イベント費	3,934,000	長尾賞	記念品	50,000	
			支払手数料	5,000	
			雑費	5,000	
		総会	会議費	295,000	会場代
			懇親会費	317,000	
			雑費	100,000	
		Zoom利用料	参加者管理システム	200,000	
		AAMT年次大会	会場・会議室	1,600,000	
			講師謝礼	220,000	
			懇親会費	462,000	
			交際費	60,000	
			印刷費	220,000	
			外注費	100,000	
			支払手数料	70,000	
			雑費	50,000	
		AAMTセミナー	講師謝礼	120,000	
			最優秀賞	20,000	
			優秀賞	40,000	
6. 編集委員会費	200,000	AAMTジャーナル	制作費	200,000	
7. 租税公課	200,000			200,000	収入印紙、消費税
8. Japio受託経費	5,884,100	AAMT/Japio	研究会経費	5,098,100	AAMT/Japio研究会受託経費
			AAMT負担経費	786,000	公益総研へ委託費用分
9. 各種事業費	2,206,000	ポストエディット委員会		200,000	
		HPリニューアル		1,896,000	
		ロゴ制作		110,000	
10. 減価償却	80,960	ソフトウェア減価償却		80,960	
11. 予備費	1,000,000			1,000,000	
総額	19,400,060			19,400,060	